

近年、テレビなどでよく見る「世界遺産」。現在、滋賀県には1994年に「古都京都の文化遺産（京都市・宇治市・大津市）」の一つとして登録された、比叡山延暦寺があります。伝教大師最澄が開いた比叡山延暦寺ですが、実は「延暦寺」という堂宇があるわけではありません。比叡山の山上から東麓にかけて境内に点在する東塔、西塔、横川など、三塔十六谷の堂塔の総称なのです。比叡山は「古事記」にもその名が見えるので、古代から山岳信仰の対象でした。麓の坂本にある日吉大社東本宮には、比叡山の地主神である大山咋神が祀られています。

近江の国滋賀郡出身の最澄は、俗名を三津首広野といひ、宝亀11年（781年）に出家して最澄を名乗ります。延暦4年（785年）に奈良・東大寺で受戒し、同年故郷

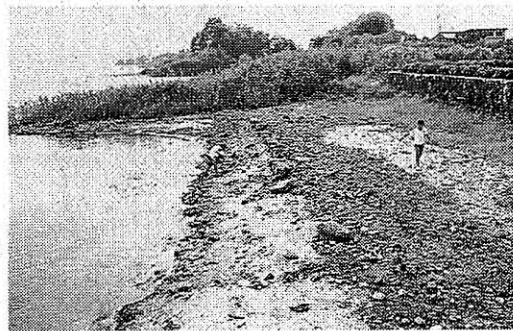
に近い比叡山に入って草庵を結びます。延暦7年（789年）には現在の根本中堂の位置に小規模な寺院を建立し、一乗止観院と名付けました。この寺は比叡山寺とも呼ばれ、年号を賜り「延暦寺」という寺号が許されるのは、最澄の没後でした。なお、桓武天皇が比叡山寺を平安京の鬼門（北東）を護る国家鎮護の道場としたことはよく言われています。

最澄は、延暦23年（805年）唐に渡り、天台教学や密教、禪を学び、これらをもとに独特の天台宗を完成させました。その後比叡山は、円仁、円珍、源信、法然、慈円、親鸞、道元、日蓮、一遍など数多くの名僧を輩出し、日本仏教の母山として確固たる地位を築いています。元龜2年（1571年）、織田信長により焼き討ちに遭います。豊臣秀吉や徳川家康によ

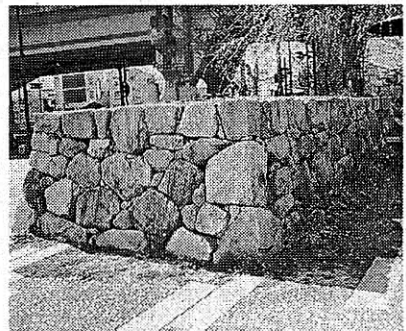
って復興しました。現在も高野山・恐山とともに、日本3大霊山の一つとして絶大な信仰を集めています。延暦寺・日吉大社という大きな寺社がある坂本ですから、門前町も栄えました。さらに宿場・港町としても栄華を誇ります。室町時代、北陸や東国からの物資は、琵琶湖上を運ばれて坂本に荷揚げされ、陸路で京都へ運ばれていました。こういった琵琶湖を

また、室町時代、坂本の穴

## 延暦寺から坂本里坊へ



坂本城跡。湯水で湖中から現れた石垣（写真⑤）。穴太衆積の石垣（坂本石積みの郷公園）



太地域には「穴太衆」と呼ばれる石工技術集団が住んでいました。彼らは非常に高い技術を持っており、延暦寺をはじめとする坂本里坊の寺院の石垣など土木業務を勤めていました。その技術を高く評価した織田信長が、安土城の石垣建設に登用したといわれ、さらに醍醐寺の石垣の工事も携わったと考えられています。彼らの、自然石を巧みに使って堅牢で美しく積み上げる野面積みを、「穴太衆積み」と呼びます。

めぐる交通・流通の拠点としての繁栄を背景に、明智光秀の坂本城が築城されます。宣教師ルイス・フロイスをして「安土城に次ぐ天下の名城」とまで言わしめた坂本城ですが、現在では湖中にのびる石垣などにその名残を留めるのみです。なお、近くにある聖衆来迎寺の表門は、坂本城の門を移築したものとも伝えられています。

JR湖西線 比叡山坂本駅下車、すぐそばに「穴太石積みの郷公園」があります。京阪電車石山坂本線 松の馬場駅、または京阪坂本駅で下車すると、坂本里坊の町並みや旧竹林院・滋賀院門跡などで名勝庭園を楽しむことができます。

（滋賀県文化財保護協会 阿刀弘史）

## 石垣に残る名城の面影